

# ふれあい学習会 「こころの健康・こころのバリアフリー」

研 座 演 演 資 映 他 体 ワ

神戸市教育委員会  
神戸市教育委員会社会教育部長田公民館  
TEL 078-575-1374

実施年月日 実績等	平成17年5月13日(金) 午後2時~午後3時30分 (平成17年度事業) 参加人数 106人 冊子作成 150部
主催(共催)	神戸市教育委員会社会教育部長田公民館
開催場所	神戸市立長田公民館
対象	一般成人
人権課題	障害者

## 事業の目的

神戸市長田区にある長田公民館では年間15回程度、「リフレッシュセミナー」と称した生涯学習に関する講演会を独自に開催している。同セミナーのうち年間約4回を「ふれあい学習会」と位置づけ、毎年、種々の人権課題の中からテーマを設定し、市民に学習機会を提供している。

平成16年度はユニバーサルデザインやイランと日本文化の違いなどについての学習会を開いたが、平成17年度は第一弾として精神障害をテーマにした講演会「こころの健康 こころのバリアフリー」を企画した。一見しても障害とはわかりにくい精神障害を取り上げることによって、各自が持つ内側の差別意識や無理解を浮かび上がらせるのが狙い。当日のパネルディスカッションには精神障害の当事者を招いた。

## 事業概要

前半で神戸市こころの健康センターの土井寛子さんが精神障害の基礎知識に関する講演を行った。100人に1人は精神障害の予備軍であり、1,000人に1人が医療機関のお世話になるともいわれている。具体的な数値などが示され、精神障害は誰にでも起こりうる病気だとの説明がなされていた。

後半のパネルディスカッションでは精神障害者地域生活支援センター「わかば」に所属する3人の精神障害者の方がパネラーとして登場。精神障害は誰にでも起こりえることだとの認識をより深めるために、顔を隠さず、名前も本名のままで登壇してもらい、「元教師である」「歯科技工士である」など、各自の出自を公表してもらった。

ディスカッションの中ではパネラーたちは「家族にも受け入れられることは難しい」「差別が怖いので病気を告白できない」といった周囲の理解を得られない苦しさを率直に告白していた。どんな言葉をかけられるのがうれしいのかという問いに対しては「(理解された上で)普通に接してもらおうこと」だとの意見が出された。

### ● 当日のレジュメから(こころのバリアフリー宣言 厚生労働省平成16年3月)

あなたは絶対に自信がありますか、こころの健康に？

- ① 精神疾患を自分の問題として考えていますか？(関心)
- ② 無理しないで、心も身体も(予防)
- ③ 気づいていますか、心の不調(気づき)
- ④ 知っていますか、精神疾患への正しい対応(自己・周囲の認識)

社会の支援が大事、共生の社会を目指して

- ⑤ 自分で心の壁を作らない(肯定)



土井寛子さんの講演の様子

- ⑥ 認め合おう、自分らしく生きている姿を(受容)
- ⑦ 出会いは理解の第一歩(出会い)
- ⑧ 互いに支えあう社会づくり(参画)

## 連携状況

神戸市民の「こころの健康」について取り組む「神戸市こころの健康センター」と共同で企画した。同センターは精神障害などの多彩な専門知識を有してはいたが、専門機関であるがゆえに講演会を開くとどうしても当事者や関係者ばかりが対象になってしまいがちだったという。間口の広い活動を行う当公民館との連携は、広く一般に向けた啓発を実践するには最適だった。公民館側にとっても、専門的な知識を有する機関との連携により深い内容の講演会を開くことができた。

当初は同センターの紹介という内容を予定していたが、先方との話し合いの中でそれだけでは足りないということになり、同センター経由で精神障害者地域生活支援センター「わかば」に働きかけて、精神障害者自身から直接話を聞くことになった。先方には快諾していただいたが、公民館側で「やっていいのだろうか」と躊躇した部分がある。しかし、精神障害者の方々が人前に出て行こうという意志を尊重するとともに、本人の公表による高い教育・啓発効果の高さを狙って、最終的には企画を実行することになった。

## 特色・工夫した点

- 当事者に公表していただくことの是非を吟味し、パネルディスカッションという形を取り、自然に話せる環境づくりに努めた。精神障害者の方に安心して話をしていただけるように、コーディネーター役は「わかば」のスタッフをお願いした。
- 1時間半の枠の中で、センター職員からの精神障害に関する概要説明と、具体例を議論するパネルディスカッションの2

部構成を取ることで、全体像と個別課題の両方を盛り込んだ。

- 従来のリフレッシュセミナーは開催後に地元の新聞社に向けてニュースリリースなどを配布するが、精神障害者の方々のプライバシーを考慮してこの回だけは配布を控えた。

## 実施結果

### 参加者の反応・事業の反響等

#### ● 参加者の感想から

- 普通の病気であること、私もなる可能性があることを知りました。
- 自分も悩めるときがあったと思いあたることがありました。そのときの周囲の支えで今日があるのではと気づかされました。
- 大変立派に生きておられる姿に感動しました。目からうろこが落ちた感じがしました。
- 参加者の多くからは自分が固定観念をもっていたことに気づいたとの声が寄せられ、精神障害に対する偏見を取り除く場として活用することができた。

### 反省点・今後の課題

ふれあい学習会では多種多様な人権課題のすべてを網羅することはできない。可能な限り多くのテーマをバランスよく取り入れるとともに、時事性を的確に掘り出すことで市民にとって関心が持ちやすく、主体性をもって取り組んでいけるテーマ設定をしていきたい。また、参加層の中でも、特に少ない30~40歳の男性にももっと参加してもらおうため、近隣小中学校のPTAとの連携も視野に入れている。

なお、平成18年度は男女共同参画社会や環境問題、食の話に関するふれあい学習会を開催する予定。



パネルディスカッションを真剣に聞く参加者